

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム  
派遣先機関等利用マニュアル

平成 24 年 10 月 16 日

派遣者氏名（専門分野）	八重樫徹	（ 哲学 ）
-------------	------	--------

派遣期間	2012 年 7 月 10 日	～	2012 年 9 月 8 日
------	-----------------	---	----------------

**派遣研究機関**

国	都市	訪問機関
ドイツ	ケルン	ケルン大学フッサール文庫

**利用マニュアル（利用申請に必要な書類、手続き、リサーチ方法を記入）**

ケルン大学フッサール文庫 (Husserl Archiv) は、チェコ生まれのドイツの哲学者エドムント・フッサールの遺稿の管理と編纂、フッサールに関する文献の収集、そしてそれらをフッサール哲学の研究の発展に役立てることを目的とした機関である。「フッサール文庫」と呼ばれる研究機関は、ベルギーのルーヴァン、ドイツのケルンとフライブルク、フランスのパリ、アメリカ合衆国のニューヨークと、世界五箇所に存在する。その中でもケルンのフッサール文庫は設立当初から国際的な研究機関として、世界各国からフッサール研究者が訪れる場所である。

同文庫を利用するために複雑な手続きは必要ない。実質的な責任者であるケルン大学のディーター・ローマー教授に、事前にメール等で、同文庫を訪れる目的・期間を伝え、許可を得さえすればよい。同文庫を初めて訪れたときは、まず利用申請書に氏名・連絡先・所属研究機関・滞在期間を記入するよう求められる。

同文庫には現在、ローマー教授の他、フッサールの遺稿の編纂作業を行なっているスタッフが二人、大学院生の研究補佐員が一人、事務員が一人いる。フッサールの遺稿のトランスクリプトを閲覧したい場合は、事務員がいるときは彼女に、いないときは他のスタッフに、読みたい草稿の整理番号を伝える。草稿の内容目録はルーヴァンのフッサールの文庫のウェブページで公開されている (<http://hiw.kuleuven.be/hua/manuscript>)。ただし、全ての遺稿のトランスクリプトがケルンの同文庫に保管されているわけではないので、事前に確認することが望ましい。読みたい草稿が同文庫にあれば、事務員がトランスクリプトの入ったファイルを出してくれる。このとき、記録簿に閲覧者の氏名と借り出した日付を記入する。こうして借り出した遺稿は、同文庫の閲覧室で自由に閲覧することができるが、持ち出しは厳禁であり、複写することもできない。そのため、閲覧者は各自ノートパソコンを持ち込み、自力で書き写さなければならない。場合によっては一つのファイルで 200 頁以上になる草稿を全文書き写すのは現実的でないため、まずはざっと読んで当たりをつけ、重要な部分のみ書き写すのが普通である。テキスト上の疑問に関してスタッフに気軽に尋ねることができるのも同文庫の利点である。

また、同文庫では未公開の遺稿だけでなく、公開されたフッサールの著作、編集作業中のテキストのコピー、関連二次文献が取り揃えられており、訪問者はそれらを研究に役立てることができる。